

全國金融總制公券一曰通幣茲令別幣三枚分以廣惠大農大臣廣記

全國金融統制會第一回通常總會
別席ニ於ケル賀屋大藏大臣演說

(昭一八四一九 於、東京銀行集會所)

本日全國金融統制會第一回通常總會ノ開催ヲ機トシ金融統制團體關係者各位御參集ノ席ニ於テ、所懷ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ、私ノ最モ欣快トスル所デアリマス。

大東亞戰爭勃發以來僅カニ一年有餘ノ今日、既ニ大東亞ノ地域ヨリ米英ノ勢力ヲ完全ニ驅逐シテ帝國不敗ノ態勢ヲ確立スルニ至リマシタコトハ、一ニ御稜威ノ下忠勇ナル皇軍將士ノ勇戰奮闘ノ賜デアリマシテ、感激ニ堪ヘヌ所デアリマス。茲ニ各位ト共ニ出征將士ノ武勇、持久ヲ祈念致シ、併セテ幾多護國ノ英靈ニ對シ謹ンデ敬弔ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

今ヤ敵米英ハ急遽其ノ戦力ノ整備ニ努力シ、銳意反攻作戰ニ出ントシテ居ルノデアリマシテ、戦ハ正ニ決戰的様相ヲ呈シテ參ツテ居リマ

。我國ト致シマシテハ、国力ヲ運モ、總力ヲ擧ゲテ大東亞ノ建設經營
ヲ行フト共ニ、生産ヲ増強シテ戦力ヲ充實ヲ圖リ、此ノ聖戦ヲ最後マテ
勝抜カネバリマセン。今日我國百般ノ施策ハ、總テ之ガ爲必要ナル
物的戦力ノ増強ト云フ一點ニ集中セラレテ居リ、國ヲ擧ゲテ之ガ達成
ニ邁進シテ居ルノデアリマシテ、財政金融ノ運営モ亦只此ノ一點ヲ目
指シテ行ハルベキハ當然デアルト申サネバラマシテ、デアリマス。

政府ハ先般開カレマシタ第八十一回帝國議會ニ昭和十八年度ノ歳入
歳出豫算案ヲ提出シ其ノ協贊ヲ經タ、デアリマスガ、右豫算ノ編成ニ
當リマシテハ、現下ノ事態ニ顧ミ生産ノ増強ヲ圖ツテ戦力ヲ充實ニ努
メ、戦争ノ遂行ニ遺憾ナカラシムルコトヲ以テ主眼ト致シタ、デアリ
マス。今回成立致シマシタ昭和十八年度一般會計豫算ハ追加豫算ヲ併
セマシテ百三十二億七千五百餘萬圓デアリマスガ、假ニ之ニ臨時軍事費
追加豫算二百七十億圓ヲ加ヘテ更ニ此ノ内兩會計間ニ於テ重複致シマ
ス分ヲ差引キマスレバ、三百六十億三千五百餘萬圓ト相成ルノデアリ

マス。而シテ之カ財源ニ充ツル爲間接税ヲ中心トスル増税ヲ斷行シ、
又煙草ノ値上げ等ヲ行ツタノデアリマスガ、向昭和十八年度ニ於ケル
公債發行豫定額ハ、一般會計及臨時軍費其ノ他ノ各特別會計豫算ノ
分ヲ合セマスレバ二百十四億二千餘萬圓ニ上ルノデアリマス。斯クノ
如ク本年度ノ豫算額及公債發行豫定額ハ何レモ曾テ見ザル巨額ト相成
ツテ居ルノデアリマスガ、政府ト致シマシテハ完璧ナル財政經濟計畫
ノ下ニ萬全ノ施策ヲ行ヒ、國民ノ劬刀ト相俟ツテ此ノ巨額ノ豫算ノ圓
滑ナル實行及巨額ノ公債ノ完全ナル消化ヲ確保セントスルモノデアリ
マス。

本年度ノ國民所得ハ大約五百億圓ト推計セラレテ居リマス。而シテ
此ノ中約百億圓ガ祖税及專賣益金等祖税ト同様ノ性質ヲ有スル歳入ノ
形ニ於テ、又約二百十億圓ガ公債ノ形ニ於テ財政所要資金トシテ留保
セラレネバナラナイノデアリマス。其ノ他生産力擴充資金モ尠ク共六
十億圓ハ必要デアルト認メラレマスノデ、結局兩者合計約三百七十億

論・決言スレバ國民所得中ノ約七割五分ガ國家所安資金ノ總額ト相成
ルノデアリマス。從ツテ國民ノ生活ニ充テ得ル資金ハ昨年等ニ比シテ
相當壓縮セフレ。約日三丁億圓ニ止ラサルヲ得ナイノデアリマス。
本年度ニ於ケル我國民經濟運営ニ關スル基本的見透シニシテ大体以
上ノ通リト致シマスナフバ、之カ實現ヲ確保スル爲ニ我國トシテ如何
ニ大ナル努力ヲ要スベキカハ敢テ想像ニ難クナイ所デアリマス。併シ乍
フ此ノ際ニ從來曾テ見ナイ巨額ノ國家資金ヲ必要トシ、之カ爲ニハ租
稅等ノ外ニ更ニ二日七丁億圓ノ國民貯蓄ヲ是カ非テ達成シテ、戰費
或ニ生産力擴充資金ノ供給ニ遺憾ナカフシメ不ハナフメト云フ點ニコ
ソ現下決戦經濟ノ特徴ガアルノデアリマス。戰爭勃發以前ニ行ハレメ
考ヘ万カフ申シマスナフバ、例ヘハ引續ク巨額ノ國債ノ發行ハ財政ノ
基礎ヲ危クシ、國債市價ノ低落ヲ來シ、或ハ又戰後ノ反動トシテ經濟
界ノ混亂ヲ招ク等ノ虞アリトスル意見セアツタデアリマセウカ、今日テ

ハ最早ヤ左様ナコトハ問題タリ得ナイノデアリマス。與スルニ之等ノ
コトハ總テ、此ノ戦争ニ勝利ヲ得ルカ、又ハ敗レ去ルカ、只此ノ一事
ニ繫ツテ居ルノデアリマス。

蓋シ巨額ノ國債ガ發行セラレ之カ國民貯蓄ニ依ツテ支障ナク消化セ
ラレテ行クト云フコトハ、採リモ直サズ其ノ資金ニ依ツテ緊要ナル戰
用資材ノ生産ガ増加シ、戦力ガ増強セラレテ行クコトヲ意味シテ居ル
ノデアリマス。正ニ我國ガ益々勝利ヲ重ネツ、アル證據デアルト申サ
ネバナラヌノデアリマス。皇國ノ上勝利ノ榮冠ガ輝ク時、ソレハ大東
亞經濟圈ノ確立ヲ見ル時デアリマス。偉大ナル國防經濟ノ建設ヲ爲シ
タル時デアリマス。我經濟力ハ想像ヲ絶スル偉大ナルモノトナリ、財
政ノ基礎亦磐石ノ重キヲ加フベキハ必至デアリマス。從ツテ巨額ノ國
債ヲ發行シ得ルコトハ寧ロソレダケ財政力ガ強固安全トナリツツアル
コトヲ示スモノト謂フベキデアリマス。國民ノ考フベキハ只戰ニ勝ツ
コトノミデアリマス。私人的ノ得失ヲ打算シ將來ノ安否ヲ較量スルガ

如キコトハ今日我々ノ考慮ノ對象タリ得ザルモノデアリマス。國家トシテ國民全体ノ運命ノ外ニ個人ノ運命ハナイノデアリマス。

現在ノ問題ハ國債發行額ノ多少ニ在ルニ非ズシテ、只此ノ大東亞戰爭ニ勝抜クコトニ在ルノデアリマス。我々一億國民ハ、此ノ前古未曾有ノ皇國興隆ノ秋ニ際會シタルヲ無上ノ光榮トシ、各々其ノ職域ニ於テ全力ヲ竭シテ御奉公ノ誠ヲ捧グルノミデアリマス。堂々ノ歩ミヲ以テ一ツ一ツノ困難ヲ乘越エ、大東亞戰爭ノ最後ノ勝利ニ向ツテ邁進スルノミデアリマス。國家ノ所與スル資金如何ニ多クトモソレガ戰ヲ勝抜ク爲必與ナル限り、是ガ非デモ之ヲ調達セネバナリマセン。日々ノ生活ヲ決戦下ノ專慮ニ相應シキモノタラシメテ國民貯蓄ノ増強ニ努メ、租稅負擔ノ増加ヲ忍ビ、我等ノ力デ、我等ノ手デ、之ヲ賄ヒ戰爭ノ遂行ニ遺憾ナカラシムルト云フ固キ決意コソ、現下皇國臣民ノ一人一人ノ心デナクテハナラヌノデアリマス。

願ミマスレバ大東亞戰爭勃發以來、我國經濟界ハ其ノ基礎愈々鞏

画ラ加フルト共ニ、戦時下素安ナル王座、増強ニ迫進シテ居リマスコ
トハ、衷心欣快ニ存スル所アリマス。蘇中我國金融界、推移ガ甚ダ
平穩デアリ、各金融機關カ國氏貯蓄、吸收ニ、國債ノ消化ニ、將又生
産力擴張允資金、供給ニ克ク具、反而ヲ達成シツツアリマスコトハ洵ニ
心強キ限リデアリマス。御承知、如ク政府ハ大東亞戰爭勃發、同時ニ
非帛金融對策ヲ發表シタ、デアリマスガ、爾來呈車、勇戦ニ出リ我本
土ガ敵ノ攻撃ヲ交クルガ如キ事態發生致シマセム爲ニ、現正途木メ共
ノ實際ノ發動ヲ見ルニ主ツテ居ナイ、デアリマス。併シ乍ラ最近敵ハ
頻リニ反攻ヲ企テ、今後何時敵機ノ來襲ヲ見ルヤモ圖ラレザル情況デ
アリマス。從ツテ非帛金融對策、實施ヲ必安トスル事態ガ發生スルモ
ノトシテ、十分ノ用心ガ女ル、デアリマスカラ、金融機關トシテハ
兵ノ際極メテ迅速適切ニ非帛金融對策ヲ實施シテル準備、尙全ラ助ス
ル必要ガアリマス。

今ヤ大東亞戰爭ハ正ニ決戦ノ段階ニ入リ、經濟界及金融界ニモ今後

設多ノ新シキ重要問題ノ提起ヲ見ントスル情状ニ在リマス。此ノ際並
ニ融昇トシテモ内ニ感々不逞ノ決意ヲ固クスルト同時ニ、事感ノ必要
ニ懸ジテハ速カニ新ナル構想ヲ以テ之ニ對處スベキ範圍タル感勢ヲ整
備スル必要ガアリマス。トハ、取テ多言ヲ要セザル所デアリマス。
大抵下經濟金融問題ノ中核ヲ爲スモノハ國民貯蓄ノ増強デアリマス。
政府ハ昨年春昭和十七年度ノ國民貯蓄増加ノ目標額ヲ二百三十億圓ト
シ、此ノ目標額ノ達成ニ努力ヲ傾注シテ參ツタノデアリマスガ、其
セラレタル志氣ヲ以テスル國民ノ努力ニ依リ、其ノ実績ハ遂ニ目標額
ヲ凌駕スルニ至レルコト既ニ瞭ラカト相成ツテ居ルノデアリマス。而
シテ元來政府ニ於テ昭和十八年度ノ目標額ヲ二百七十億圓ト決定シマ
シタコトハ各位ノ御承知ノ通りデアリマス。而モ其ノ中約二百十億圓
ハ金融機關及百餘種係ニ於ケル資金収収ニ俟ツベキモノトセラレテ
居リマス。此ノ二百七十億圓ト云フ目標額ハ、昨年度ノ目標額ガ既ニ

二百三十億圓ト云フ多額デアリマスノニ、之ニ更ニ四十億圓ヲ増加セ
ントスルモノデアリマスカラ、斯ル巨大ナル目標額ヲ達成スルト云フ
コトハ、到底通常ノ努力ヲ以テシテハ期待ン得ラレナイト申サネバナ
リマセン。

之ガ爲先ヅ必要ナコトハ決戦體制ニ即應スル國民生活規準ノ確立テ
アリマス。國民生活ノ徹底的戰時化デアリマス。國民ノ一人一人カ愛
國ノ至誠ヲ以テ、職場ニ在ツテハ捷マサル勤勞ニ依ツテ生産ノ増強ニ
努メ、家ニ在ツテハ消費ヲ節約シテ乏ンキニ堪ヘ、忍苦敢闘ノ生活ニ
徹スルコトデアリマス。國民ガ一切ノ安逸ト浪費トヲ捨テ去リ、勇躍
シテ國運ノ興隆ニ挺身スル時、國民貯蓄ハ自ラ増強セラレルノデアリ
マス。我々ハ國民貯蓄ガ基礎ナクシテ築キ上げラレルモノテナイコト
ヲ銘記セバナリマセン。

政府ハ國民貯蓄ノ増強ニ資スル爲、先般ノ議會ノ協賛ヲ經テ各種ノ立
法ヲ行ツタノデアリマス。普通銀行等ヲシテ貯蓄銀行業務又ハ信託

業務兼管ヲ認ムルコトト欲シマシタノモ其ノ一ツデアリマス。此ノ方
策ハ金融機關ノ業務分野等ニ歸スル從來ノ固定的考ヘ方ヲ以テスレバ
相當問題デアリ得ルノデアリマセウガ、政府ニ於テ敢テ之ヲ斷行シマ
シタ所以ハ、一ニ現下緊要ナル國民貯蓄ノ増強ニ付テ敢テ之ヲ斷行シマ
グル爲ニハ、人員及店舖數等ヨリ見テ活動力大ナル普通銀行等ニモ貯
蓄銀行業務又ハ信託業務ヲ兼管セシメ、之ニ依ツテ大衆的預金及長期
的資金ノ吸收ニ全力ヲ盡スノ必要ガアルト認メタコトニ依ルノデアリ
マス。

斯クノ如ク政府ハ今ヤ一段ト重要性ヲ加ヘ來リマシタ國民貯蓄ノ増
強、資金配分ノ適正化ノ二大要請ノ前ニハ、必スシテ從來ノ考ヘ方ニ
拘泥スルコトナク、現在ノ金融機構ニ加フベキ改革ヲ加ヘ、以テ金融
ノ機能ヲ最高度ニ發揮スベク努力シテ居ルノデアリマス。併シ乍ラ政
府ノ行ハントスル改革ハ決シテ單ニ概念的見地ヨリスル改革ニ非スシ
テ、~~能~~行ハントスル改革ハ決シテ單ニ概念的見地ヨリスル改革ニ非スシ
テ、能ク迄モ事態ニ即應セル實際的必要ニ基クモノミデアリマス。

今般日本証券取引所法ヲ制定シテ証券取引所制度ノ全面的改正ヲ斷行
シ、又農林業關係團體ノ統合ニ伴ヒ市街地信用組合法ヲ制定シマシタ
コト等モ全テ此ノ趣旨ニ出ヅルモノニ外ナラヌノデアリマス。

近來金融界ノ内部ニ於テモ政府ノ此ノ方針ニ即應シ、進ンテ金融機
構ノ整備ヲ協力スルノ氣運ノ醸成セラレツツアリマスコトハ私ノ敢モ
欣快トスル所デアリマス。御承知ノ如ク最近市中大銀行間ニ數個ノ合
併ガ行ハレタノデアリマスガ、合併セラレマシタ銀行ハ何レモ其ノ歴
史最モ古ク、又我國屈指ノ大銀行デアリマス。之等ノ銀行ニ於テハ現
下内外ノ情勢ニ顧ミ、一層國策ヘノ協力ニ遺憾ナキヲ期スル爲、多年
ノ傳統ニ泥マス勵乎自發的ニ合併ヲ決定セラレタモノデアリマシテ、
其ノ意識ト勇斷トニ對シ敬意ヲ表スル次第デアリマス。其ノ他ノ銀行、
保險會社、無盡會社等ニ付キマシテモ、中央地方ヲ洞ジ着々トシテ時
局ノ要請ニ即應スル機構ノ整備ガ實現セラレツツアリマス。斯クノ如
ク時局下緊要ナル金融機構ノ整備強化ガ、關係者ノ自發的協力ニ依リ進

歩ラ見ツツアリマスコトハ洵ニ心強キ限リデアリマス。

併シ乍ラ金融界カ克ク其ノ使命ヲ達成スルヤ否ヤハ其ノ機軸モサル
事乍ラ。懸ツテ其ノ運営ノ方法如何ニ在ルト申サネバナラヌデアリ
マス。而シテ決戦下金融機關ノ運営ヲ國策ノ線ニ完全ニ即應セシムル
ト云フコトハ、其ノ運営ノ方法自體ヲ根本的ニ戰時化スルコトニ外ナ
ラヌデアリマス。此ノコトハ現在國民ノ生活ガ戰時化セラレネバナ
ラヌコトニ對應スルモノデアリマシテ、國民ノ一八一八ノ生活ガ戰時
化セラレ其ノ勤勞ト消費ノ節約トニ依ツテ貯蓄ガ達成セラレテ行ク時、
之ヲ受入レテ官理運用ノ任ニ當ル金融機關ノ經營ガ、只漫然ト情勢的
ニ行ハレルト云フコトハ許サレナイコトデアリマス。加之私ハ更ニ進
ンデ我々金融ノ事ニ精ル全テノ者ノ生活行動自體ガ戰時化セラレネハ
ナフヌト考ヘルデアリマス。我々ノ生活ハ國民貯蓄増進ノ第一線戰
士トシテ凡ソ國民ノ戰時生活ノ範タルベキモノデナクテハナラヌデア
リマス

各種ノ金融機關ハ夫々其ノ種類ハ異ツテ居リマシテモ、事業ノ運営
ガ總テ公的の理念ヲ以テ實カレネバナラヌコトハ至テノ金融機關ヲ通ジ
テ至ク同一デアリマス。本來金融機關ノ事業自體ガ公共的ノモノデア
ルノハ申ス迄モアリマセンガ、現下ノ時局ハ之ニ加フルニ金融機關ニ
對シ各種ノ國家的の事務ヲ擔當セシムルコトヲ要求シテ居ルノデアリマ
ス。最近ノ例ヲ擧ゲマスナラバ、社債ノ登錄、國債ノ發行、國債ノ買入、
各種ノ戰爭保險ノ引受、國稅ノ收納、納稅準備金等ニ關スル事務
如キ之デアリマシテ、政府ハ之等ノ事務ヲ委ヌルニ際シ特殊金融機關
タルト云フヲ問ハズ、各種ノ機關ヲ其ノ何スルト委ヌルトニ從ツテ選
デ居ルノデアリマス。斯クテ今日至テノ金融機關ハ益々公的の機關化シ
ツツアルノデアリマシテ、各處ハ金融機關ノ任務目録ガ如クノ如ク戰
時ノ要請ニ應ジテ變更ヲ見ツツアルト云フ事實ヲ俟ク心ニ銘セラレ度
イノデアリマス。

由來金融事業ハ坐員ナル古キ傳統ヲ有シ、之ニ依ツテ克ク世人ノ信

頼フ博シ、事業ノ發達ヲ見ルニ至ツタデアリマシテ、此ノ氣風ハ勿
論十分實ブベキモノト信ジマスガ、然シ此ノコトハ決シテ金融事業ノ
運営方何時迄モ從來通りノ方法ニ依リ繼續セラレテ宜シト云フコト
デハナイト考ヘマス。又戦争勃發以來金融界ハ各立ノ努力ニ依リ全ク
平靜デアリマシテ、曠古ノ大戦下トハ思ヘヌ程順調ナル推移ヲ迎ツテ
古ルノデアリマスガ之ガ爲外部ヨリ見レバ恰モ金融界ガ徒ラニ保守的
デアツテ進歩ナキガ如ク見ラレ勝テアリ、又此ノコトハ動モスレバ
金融ノ事ニ傍ル者ノ心ニ弛ミテ興ヘ、思ハスモ舊套ヲ墨守スルノ弊ニ
陥リ勝チデアリマシテ、此ノ點ハ我々ガ常時深ク戒心ヲ要スル所デア
リマス。改革セラルベキ點ハ斷乎トシテ改革シ、常ニ此ノ決戦下ノ事
態ニ適應スル態勢ヲ養ヘ以テ國策ニ協力スルノデナケレバ、實ニ所謂
舊體面ノ誇フ充カレサルノミカ克ク其ノ使命ヲ達成スルコト不能ハサ
ルニ至ルモノト信ズルノデアリマス。此ノ意味ニ於テ金融機關トシテ
ハ、例ヘバ現下ノ人手不足等ニ對シテモ業務上ノ工夫ト改善トニ依リテ

之ヲ克服スルト云フ努力カ必要デアリマス。通般來全國金融統制會ヲ
中心トシテ苦心研究ヲ重不フレマシタ結果、日本銀行具ノ他全國銀行
ノ協同ニ依リ内閣爲督策中決済ノ制度ヲ創設セラル、連ビトナリマシ
タコトハ、時局下河ニ適切ナル應策ト申スベキデアリマシテ、政府ト
シアセ之ニ對シ援助ヲ惜マセノデアリマス。

金融統制團體ハ御承知ノ如ク昨年五月日本銀行制度ノ全面的改正ト
時ヲ同シウシテ設立セフレ、日本銀行ト唇齒輔車ノ關係ニ立テ相並ン
テ金融統制ノ實施ノ任ニ當ルベキ使命ヲ以テ發足シタノデアリマス。

爾來一ケ年ヲ經過シタニ過ギマセケレドモ、私ハ此ノ一年間ノ實績
ニ徴シマシテ、統制團體設立ノ目的ハ既ニ着々トシテ到達セフレツア
ルモノト信スルセノデアリマス。創立早々多事ナル時期ニ際シ、關係
者各位ノ拂ハレタル御努力ニ對シマシテハ深ク敬意ヲ表スル次第デア
リマス。

申ス迄モナク金融統制團體ハ金融機關ノ自律ニ基ク一體の、組織デ
アリマス。金融機關ノ意思ガ其處ニ結集セラレ、其ノ機能發揮ガ統制
團體ノ活動ヲ通ジテ十分ニ實現セラレルト云フ状態コソ理想トスル所
デアリマス。此ノ理想ノ境地ハ、金融機關ノ經營者ガ統制團體ニ對シ
十分ナル信頼感ヲ持ツニ至リタル時始メテ實現セラレルノデアリマシ
テ、此ノ信頼感ナクシテハ統制團體ハ金融界ヨリ遊離シ、單ニ其ノ外
ニ立ツテ之ニ命行スニ丈ケ、機關ト化スルノデアリマス。統制團體ト
シテハ創立日尙淺クシテ克ク斯ク、如キ信頼感ヲ克チ得ルコトハ相當
ノ困難ヲ伴フコトデアリマセウガ、之ハ金融統制團體存立ノ根本問
題デアリマス。之ガ實現ノ爲統制團體ノ理事者トシテ常に留意スベキ
コトハ、第一ニ金融情勢ノ推移ヲ迅速適確ニ把握スルニ努ムルコトデ
アリマス。第二ハ、指導統制ノ實行ニ當ツテハ之ニ十分ナル弾力性ヲ
付與シ、固定劃一ニ流レズ、機ニ應ジ適切ナル判斷ヲ行フコトニ依ツ
テ金融機關ノ創意ト活力トヲ最高度ニ發揮セシムルコトデアリマス。

斯クノ如キ指導統制方真行セラル、時、兵處ニ斯メスシテ、統制團體
ニ對スル信頼感ハ湧上ルノデアリマス。

又金融機關ノ側ニ於テモ、個々ノ立場ヲ離レ眞ニ統制團體ノ一員ト
成リ切テ兵ノ指導統制ニ服シ、統制團體ノ發達ヲ援クルコトガ必要デ
アリマス。此ノコトハ金融機關ノ國家的使命ト統制團體ノ必要件トニ
思ヲ致シマスアラバ、益シ富然ノコトデアリマシテ、此ノ點ニ付テハ
我ニ有ナル金融機關ニ於テ他ニ平允シテ兵ノ範ヲ示サレ度イノデア
リマス。

政府ハ統制團體設立ノ旨初表明シマシタ如ク、幾々重要性ヲ増大シ
ツ、アル金融統制ノ真行ニ付テハ、統制團體ニ依ル統制方式ニ依リ對
應セントスルモノデアリマシテ、尙ニ金融機關ノ資金ノ収及運用ニ
關スル指導統制ニ付テハ、兵ノ基本的大綱ハ全國金融統制會參畫ノ下
ニ政府ニ於テ決定スルノデアリマスガ、兵ノ真行ニ付テハ主トシテ之
ヲ統制團體ニ委ヌル方針デアリマス。從ツテ金融統制團體ノ基幹者タ

ル各位ハ只單ニ政府ノ具體的指示ヲ俟ツテ始メテ動クト云フノデナク、
常ニ國策ノ動向、政府ノ方針ヲ察シテ自發的ニ適切ナル方策ヲ實施ス
ルニ努メラレ度イノデアリマシテ、斯クテこそ統制團體ガ自律團體タ
ルノ眞面目ハ發揮セラレルノデアリマス。又各位カ常時各岐ノ金融問
題ニ關シテ研究ヲ盡サレ、進ンデ政府ニ對シ建議セラルルコトハ、政
府トシテ希望スル所デアリマス。例ハバ金利ト租税トノ調整ヲ圖ルガ
如キコトハ今後ニ於ケル國民貯蓄ノ増強、金融機關ノ經營等ニ關聯シ
テ極メテ重要ナル事項ト認メラレルノデアリマスガ、此ノ種ノ事項ノ
如キハ各位ニ於テ實際的見地ヨリ十分研究ヲ積マレ度キ事項デアリマ
ス。

決て下經濟界ノ情勢ノ變化ニ伴ヒ、金融界ニハ概々トシテ新シキ問
題ガ詠セラレツツアリマス。金融統制團體ハ政府ト協力シテ遂カニ之
等問題ノ解決ノ方策ヲ圖立シ、之ニ同ツテ傘下機關ヲ助員セネバナラ
ズノデアリマス。特ニ今後或時生産ノ増強ヲ圖ルガ爲ニハ、新ニ生産
設備ヲ擴充スルノミナラス、既存ノ設備ニ付テモ之ヲ妥善ナル方面ニ
再投資用スルノ必要ヲ生スルノデアリマシテ、斯ル場合各機關務ノ整

理・撒布セフレメル整理資金ノ吸收等金融上種々ナル問題ノ發生カ豫
想セラレルノデアリマス。而シテ且ノ歳ナ務台ニ金融機關ガ天々ノ判
斷ニ基キ個別的ニ行動スルコトト相成リマスレバ、一面ニ於テ浮動資
金ノ吸收及緊要ナル産業資金ノ供給ニ遺憾ナキヲ期シ待サルノミナ
ス、整理縮少ノ餘儀ナクセフル、企業等ノ方面ニ於テ摩擦混亂ヲ生
ル良ナシトシナイノデアリマシテ、且處ニ金融統制團體ノ適切ナル指
導統制ニ依ル協力が絶對ニ必要デアルト認メフレルノデアリマス。各
位ハ産業界トノ連絡ヲ愈々緊密ニシ、適切ナル金融措置ニ依ツテ戦力
ノ増強竝ニ經濟秩序ノ維持ニ貢獻セフレ度イノデアリマス。
之ヲ要スルニ金融統制會ヲ首メ各金融統制團體ニ於テハ、創立
以來一ヶ年ノ間ニ於テ既ニ幾多ノ重要ナル事業ヲ開始セフレメノデア
リマスガ、之等ノ事業ハ今後愈々周密ニ之ヲ實施セフレメバナフメノ
デアリマス。特ニ金融機關ノ資金ノ運用ニ關スル指導統制實行セフレ、
之ニ基キ金融機關ノ公債其ノ他ノ有價証券ノ消化竝ニ生産力擴充資金

供給が計畫的ニ實行セラレツツアリマスコトハ、洵ニ喜ブベキコト
デアリマスガ、此、際更ニ一段ト努力ヲ要スルコトハ、右ノ指導統制
ニ十分ナル弾力性ヲ保持セシメ、克ク情勢ノ變化ニ即應セシムルト同時
ニ、各金融機關ノ經營ノ情況其ノ他ノ實情ニ適合セシメルコトデア
ト考ヘマス。尙又前ニ申述べマシタ新シキ問題其ノ他今後ニ殘サレタ
問題ニ付テハ、速カニ適切ナル方策ノ實行ガ期待セラレルノデアリマ
シテ、之等ノ點ニ付テハ各位ノ一段ノ努力ヲ切望スルモノデアリマス。
以上金融統制團體ニ對シ要望致シ度キ若干ノ事項ニ付申述べタ次第
デアリマスガ、今ヤ時局ハ國民貯蓄ノ吸收ニ、戰費ノ調達ニ、將又生
産力擴充資金ノ供給ニ、金融機關ノ一體的活動ニ依ル綜合的機能ノ發
揮ト國策協力トヲ最高度ニ要請シツツアルノデアリマス。而シテ金融
機關ヲシテ適切ナル指導統制ニ依リ此ノ要請ニ即應セシムベキ統制團
體ノ任務ハ、愈々重大ト申サネバラマシデアリマス。既往一ケ年ハ

金融機関の設立セラレ請ハバ兵ノ争業ノ軌道ヲ敷設シタル年デアリ
マス。來ルベキ年コソハソノ上ニ轟々ト列車ヲ走ラスベキ年デナクテ
ハナリマセン。

皇國ノ隆音ト東亞ノ興廢トヲ相ケタル大東亞戦争ヲ最後迄勝拔キ、
海國二千六百有餘年皇國小敗ノ歴史ニ更ニ輝カンキ一時代ヲ追加スル
コトハ、現代皇國臣民ニ課セラレタル光榮アル仕務デアリマス。各位
ハ經濟界ニ於テ取モ重安ナル使命ヲ有スル金融機関の關係者トシ
テ、兵ノ仕務ノ重ナルヲ想ヒ、悉々兵ノ職責ノ遂行ニ挺身セラレン
コトヲ切望シテ已マヌ次第デアリマス。